

2007.7.5

～渡航情報（スポット情報）～

（件名）

イラク：治安情勢

（内容）

1. イラクについては、北部のクルド地域（エルビル県、スレイマニア県及びドホーク県）に対し「渡航の延期をお勧めします。（所属企業等を通じ十分な安全対策をとることができない方は、一時退避をお勧めします。）」を、それ以外の全土に対し「退避を勧告します。渡航は延期してください。」（退避勧告）を発出するとともに、スポット情報において累次にわたり、テロ・誘拐の脅威について注意を促しています。イラクではこれまで、治安組織や米軍、民間人等に対する攻撃や外国人誘拐等が相次いで発生しており、また、テロ事件に巻き込まれる可能性があるだけでなく、邦人を含む外国人がテロ・誘拐等の直接の対象となっていることに十分留意が必要です。

また、クルド地域は、これまでイラクの他の地域と比して安定していましたが、5月9日付け及び15日付けスポット情報でお知らせしたとおり、5月9日に中心都市エルビルで約100人の死傷者を出す自爆テロ事件が、13日にはエルビル県と中部ニナワ県の県境に近い町で150人以上の死傷者を出す自爆テロ事件が発生するなど、同地域及び同地域とイラク中・南部との境界付近においてもテロが発生しています。現在、同地域に対しては退避勧告を発出していませんが、テロ事件の頻発するイラク中部に隣接していること、またイラク全体の情勢が流動的であることから、今後も同地域においてテロ事件が発生する可能性は排除できず、これまで以上に注意する必要があります。

2. 最近、イラクで発生した主な事件等は、報道によれば以下のとおりです。6月13日のサーマッラーにおけるイスラム教シーア派聖地アスカリ聖廟爆破事件以降も、宗派对立を背景とする爆破事案がみられる他、引き続き多国籍軍、イラク治安部隊への攻撃が多発しています。また、自動車爆弾を使用した自爆攻撃が多発しています。

（1）6月28日

（イ）バグダッド南西部のシーア派地区のミニバスの停留所付近で、朝のラッシュ時に自動車爆弾が爆発し、25人が死亡、40人が負傷しました。

（ロ）バグダッド中心部に迫撃砲弾3発が着弾し、イラク人3人が死亡、16人が負傷しました。

（2）6月29日

（イ）バグダッド中心部にある多国籍軍管理区域（インターナショナル・ゾーン）に迫撃砲弾7発が着弾しました。（死傷者の有無については不明です。）

（ロ）バグダッド中心部のダウラ地区で、内務省特殊部隊の制服を着用した武

装集団が民家を襲撃し、11人を殺害した上、7人を拉致しました。

(ハ) バグダッド北部の鉄道駅で、自動車爆弾を使用した自爆攻撃があり、6人が死亡、5人が負傷しました。

(3) 6月30日

(イ) 中部ムクダーディーヤにある警察官募集センターで、この日までに、警察の制服を着用し爆弾を装着した男が自爆し、20人が死亡、22人が負傷しました。

(ロ) 南部バスラ中心部のジャザーイル地区の旧旅券事務所付近で、この日までに県警察の幹部1人が拉致されました。

(4) 7月1日

(イ) 西部ラマーディー東部で、爆弾を積載した車両を使用した警察署を狙った自爆攻撃があり、5人が死亡、14人が負傷しました。

(ロ) 中部ファールージャの検問所で、爆発物を積載したトラックを使用した自爆攻撃があり、警察官5人が死亡しました。

(5) 7月2日

(イ) 中部ディーワーニーヤ中心部で、米軍基地を標的とした迫撃砲攻撃及び爆発があり、11人前後が死亡、25人が負傷しました。

(ロ) バグダッド北東部の市場で、自動車爆弾1発が爆発し、少なくとも11人が死亡、33人余りが負傷しました。

(6) 7月3日

(イ) 北部タミーム県キルクーク南部で、地元の警察署長を狙って自動車爆弾が爆発し、少なくとも2人が死亡、子供3人と警察官5人を含む17人が負傷しました。

(ロ) バグダッド北東のシャープ地区にある市場で自動車爆弾が爆発し、少なくとも18人が死亡、35人が負傷しました。

(7) 7月4日

(イ) バグダッド市内の死体保管所で、この日までに、6月にバグダッドのユースフィーヤ地区及びジャーミア地区で拉致されたイラク人ジャーナリスト2人の遺体が発見されました。

(ロ) 西部ラマーディー東方で、この日までに、自動車爆弾1発が爆発し、警察官ら15人が死亡、18人が負傷しました。

3. 誘拐は現在も発生しており、今後もその脅威は高いと考えられます。最近でも、5月29日にバグダッドで発生した英国人5人の拉致事件のように、外国人を狙った誘拐事件が発生しています。これまでに発生した事件の犯行主体は、テロ活動を行う武装勢力に限らず様々です。また、犯罪組織の関与も疑われており、各所に内通者がいることも考えられます。誘拐を行う動機も一様ではありませんが、犯行がますます計画的かつ巧妙になる傾向にあります。例えば、警護があっても人数等で警護を圧倒し拉致が実行される例があるほか、武装集団が事務所や住居に侵入した上で誘拐する例もあります。

4. (1) 以上のとおり、依然としてテロ・誘拐等が各地で多発していることに十分留意し、イラクのうちクルド地域以外の地域に渡航することは、どのような目的であれ絶対に見合わせることを、また、クルド地域以外の地域に滞在されている方は、最新の情報の入手に努め、十分な警備措置を講じた上で直ちに同地域から退避されるよう改めて強く勧告します。

(2) また、クルド地域についても、どのような目的であれ渡航を延期するようお勧めしますが、やむを得ず同地域に一時的に渡航される方は、十分な安全対策をとるほか、誤ってイラク中・南部に近づくことのないよう、また、イラク中・南部との境界付近に立ち入らないよう、現地事情に詳しいガイドなどを雇用するようにしてください。また、テロの標的となりやすい政府関係機関に近づかないようにしてください。

(問い合わせ先等)

○外務省領事局邦人テロ対策室（テロ・誘拐に関する問い合わせ）

電話：（代表）03-3580-3311 （内線）3399

○外務省領事局海外邦人安全課（テロ・誘拐に関する問い合わせを除く）

電話：（代表）03-3580-3311 （内線）5139

○外務省海外安全相談センター（国別安全情報等）

電話：（代表）03-3580-3311 （内線）2903

○外務省海外安全ホームページ：<http://www.anzen.mofa.go.jp>

○在イラク日本国大使館

電話：（873-761）213234（衛星電話）

FAX：（873-761）213235（衛星電話回線）

2007.07.5

～渡航情報（スポット情報）～

（件名）

アフガニスタン：治安情勢

（内容）

1. （1）アフガニスタンについては、首都カブール市に対して危険情報「渡航の延期をお勧めします。」（特に、組織的な安全対策をとることができない方は、同市への渡航を厳に差し控えるようお勧めします）を、ジャララバード、ヘラート、マザリ・シャリフ、バーミアンの各都市に対して危険情報「渡航の延期をお勧めします。」を、これらを除くアフガニスタン全土に対して危険情報「退避を勧告します。渡航は延期してください。」（「退避勧告」）を発出しています。

（2）6月17日には、日本人2人が巻き込まれて負傷する爆弾テロ事件がカブールで発生しました（同日付けスポット情報「首都カブール市における爆弾テロ事件の発生に伴う注意喚起」）。また、これまでに日本のNGOのアフガニスタン職員が搭乗した車両が銃撃される事件も発生しており、日本人が誘拐やテロの直接の標的となる可能性も排除されません。

（3）3月4日にヘルマンド県でタリバーンに拉致されたイタリア人ジャーナリストが同月19日に解放されましたが、同解放は、アフガニスタン政府に拘束されていたタリバーン関係者の釈放と引き替えに行われた旨報じられました。さらに、4月3日にはニムローズ県でフランス人NGO活動家2人とアフガン人職員3人がタリバーンに誘拐されました（その後、全員解放されました。）。また、最近では、タリバーンの構成員が外国人誘拐を企図して首都カブール市に潜入したとの情報もあり、今後、特に首都カブール市及び東部については、より一層の注意が必要です。

（4）また、報道によれば、これまでアフガニスタン南部及び東部を中心に活動を展開してきたタリバーンがアフガニスタン全土で攻勢に出ていることや、5月27日にタリバーンの報道官が新たな攻勢を開始した旨の声明を出したこと、さらには、例年ケシの収穫を終える6～7月頃にかけてタリバーンが攻勢に出ていることなどから、アフガニスタン全土において治安がさらに不安定化することも懸念されています。首都カブールにおいても多くのテロ事件が発生しているほか、昨年以降、全土で自爆テロ事件の発生が顕著になってきています。

2. 報道等によれば、最近、アフガニスタンで発生した主な事件等は以下のとおりです。

（1）6月27日

ガズニ県アンダル郡において、警察のパトロールがタリバーンの攻撃を受け、戦闘となり、タリバーン2人が死亡し、3人が逮捕されました。

（2）6月28日

首都カブール市において、外国人が乗った車両が爆弾を満載した車両による

自爆攻撃を受け、米国人2人と民間人1人が死亡し、民間人5人が負傷しました。

(3) 6月29日

ヘルマンド県において、ISAFが実施した対タリバーン作戦の空爆により、民間人65人とタリバーン35人が死亡しました。

(4) 6月30日

(イ) ヌーリスタン県ワイガル郡において、タリバーンが郡庁を攻撃し戦闘となり、警察官1人が死亡、警察官3人とタリバーン1人が負傷しました。

(ロ) カンダハール県アルガンダブ郡において、警察と武装勢力の間で戦闘が生じ、警察官3人が負傷しました。

(5) 7月1日

ワルダック県メイダン・シャヘル郡において、自動車爆弾が郡警察本部前で爆発し、4人が死亡、警察官を含む13人が負傷しました。

(6) 7月2日

(イ) ホースト県ヤクビ郡において、車でホースト市に向かう途中の県教育局高官が武装勢力の攻撃を受け射殺され、同乗者1人が負傷しました。

(ロ) カンダハール県ジャリ郡において、警察の検問所が武装勢力の攻撃を受け、警察官2人が負傷しました。

(ハ) カンダハール県ジャリ郡において、警察の車両が簡易爆弾の攻撃を受け、警察官7人が負傷しました。

(ニ) ファラーフ県ポル・チャマン郡において、武装勢力が警察の検問所を攻撃し戦闘となり、武装勢力2人が死亡、警察官3人が負傷しました。

(7) 7月3日

(イ) カンダハール県において、ISAFと武装勢力の間で戦闘が生じ、武装勢力数人が死亡し、兵士1人が負傷しました。

(ロ) ガズニ県ラシダン郡において、民間の車両が地雷による攻撃を受け、民間人2人が死亡し、同3人が負傷しました。

(8) 7月4日

カンダハール県において、ISAFの車両が簡易爆弾の攻撃を受け、兵士6人とアフガン人通訳1人の計7人が死亡しました。

3. アフガニスタンにおいては、引き続き自爆テロを含む爆弾テロ、誘拐・殺害事件等が発生しており、これらは首都カブールを含む国内のあらゆる地域で発生する可能性があります。また、武装勢力は、政府関係者のみならず、外国人、民間人、援助関係者等にまで標的を拡大し、テロや誘拐を実行しています。特に、幹線道路や街道では爆弾事件や襲撃事件が多発しており、陸路での移動時における被害が多く報告されています。

上記の情勢にかんがみ、引き続き「退避勧告」が発出されている地域には渡航・滞在しないよう、また、それ以外の地域についても渡航を延期するよう強くお勧めします。2005年9月初めには、行方不明となっていた日本人旅行者2人がカンダハール郊外で遺体で発見される事件が発生しており、さらには上記のとおり誘拐の脅威もありますので、観光目的などの不要不急の渡航は厳に差し控えてください。また、パキスタンからの陸路による入国を含め、陸路

での都市間及び都市・国境間の移動は極めて危険なため、アフガニスタン全土において差し控えるよう強く勧告します。

4. これにもかかわらず、真にやむを得ない事情により同国に渡航・滞在される場合には、あらかじめ退避手段を準備の上、危険情報・スポット情報の内容に留意し、テロ・誘拐事件等不測の事態に巻き込まれることのないよう、最新の関連情報の入手に努めて下さい。米軍、I S A F (国際治安支援部隊)、アフガニスタン国軍、警察、国連、国際機関等の施設・車両、大統領府・中央官庁・議会ビルなどの政府関連施設、ジャララバード街道、主要国大使館、欧米系企業など外国企業、繁華街、バザール、レストラン、インターネット・カフェ、モスク、外国人の多く集まる場所等テロの標的となる可能性のある危険な場所を可能な限り避ける、不審な車両、荷車、人物等には近づかない、不要・不急及び単独での外出は控え、必要に応じ防弾車・身辺警護員を配備する、行動のパターン化を避ける、出発・到着時間及び行き先を関係者に報告しておく、携帯電話等連絡手段を持つ、事務所等についても必要な警備措置を講じる等、厳重な安全対策を講じ（誘拐対策の詳細は http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_04.html を参照してください）、自らの安全確保に注意を払ってください。特に上記3. のとおり、地方の道路を含め陸路での移動は極めて危険なので避けてください。さらに、同国に入国し次第、必ず緊急連絡先を日本国大使館領事部に連絡してください。同領事部では、上記情報の詳細等現地治安情勢に関する情報を必要に応じ提供しています。

（問い合わせ先等）

- 外務省領事局邦人テロ対策室（テロ・誘拐に関する問い合わせ）
電話：（代表）（03）3580-3311（内線）3680
- 外務省領事局海外邦人安全課（テロ・誘拐に関する問い合わせを除く）
電話：（代表）（03）3580-3311（内線）5139
- 外務省海外安全相談センター
電話：（代表）（03）3580-3311（内線）2902
- 外務省海外安全ホームページ：<http://www.mofa.go.jp/anzen/>
- 在アフガニスタン日本国大使館
電話：（873）762-853-777
 （93）799-689-861（夜間、緊急を要する場合）
FAX：（873）761-218-272